

著者・翻訳者プロフィール

◎著者

板垣 竜太 (いたがきりゅうた)

同志社大学社会学部・教授。朝鮮近現代社会史・文化人類学を専攻する。主著に『朝鮮近代の歴史民族誌』(2008)、共著に『東アジアの記憶の場』(2011)等がある。

コ ヨンジョン (高榮珍, 고영진)

同志社大学グローバル地域文化学部・教授。韓国語学、社会言語学を専攻する。主な論文に、「北韓文法の品詞論の変遷—'品詞'から'品詞論'へ(북한 문법의 품사론의 변천—'품사'에서 '품사론'으로)」(2002)、共著に『植民地時期前後の言語問題(식민지 시기 전후의 언어 문제)』(2012)等がある。

金 惠英 (キム ヘヨン, 김혜영)

トロント大学(カナダ)文理科大学東洋学科・元講師(2013年に退職)。外国語としてのコリア語教授法を専攻する。主な論文に「コリア語尊待法の変遷」等がある。

金 泰成 (キム テソン, 김태성)

釜山大学校(韓国)・名誉教授。ドイツ語学を専攻する。釜山大学校人文大学独語独文学科在職(1980.9-2013.8)、韓国独語学会会長(2002-2004)。主な論文に「東独時期の陳情書テキストの分析」、「ルター聖書の言語形態」、「ドイツ言語純化運動の様相」等がある。

金河秀 (キムハス, 김하수)

延世大学校（韓国）国語国文学科・元教授（2014年に退職）。国立国語院言語政策部長（2004-2006年）、延世大学校言語情報研究院院長（2008-2013年）を歴任した。社会言語学と言語思想史を専攻する。主な論著に「帝国主義と韓国語の問題—帝国主義と民族主義が韓国言語学に与えた影響を中心に（제국주의와 한국어 문제 — 제국주의와 민족주의가 한국 언어학에 미친 영향을 중심으로）」（2005）、『問題としての言語1：社会と言語（문제로서의 언어 1：사회와 언어）』（2008）、『問題としての言語2：民族と言語（문제로서의 언어 2：민족과 언어）』（2008）等がある。

崔炅鳳 (チェギョンボン, 최경봉)

圓光大学校（韓国）国語国文学科・教授。語彙意味論および国語学史を専攻する。主著に、『国語の名詞の意味研究（국어 명사의 의미 연구）』（1998）、『ウリマルの誕生（우리말의 탄생）』（2006）、『ハンゲルについて知るべき全てのこと（한글에 대해 알아야 할 모든 것）』（2008）、『ハンゲル民主主義（한글민주주의）』（2012）、『意味によって分けられたウリマル慣用語辞典（의미 따라 갈래지은 우리말 관용어사전）』（2014）等がある。

趙義成 (チョウイソン, 조의성)

東京外国語大学大学院（日本）総合国際学研究院・准教授。現代韓国語文法と中世韓国語文法を専攻する。主な論文、訳注書に『訓民正音』（2010）、「起点的意味を表す中期朝鮮語の諸形式について」（2009）、「北韓の単語結合論と旧ソ連の単語結合論—60年文法を中心に（북한 단어결합론과 옛 소련 단어결합론 — 60년문법을 중심으로）」（2001）等がある。

崔義秀 (チェヒス, 최희수)

青島濱海学院（中国）・教授。韓国語を専攻する。延辺大学教授、中国韓国語教育学会副会長、中国国家哲学社会科学プロジェクト審査委員を歴任した。主著に『朝鮮漢字音研究조선한자음 연구』（1986）、『韓国語実用语法』（2008）、『韓汉语音対比』（2007）等がある。

崔應九 (チェ ウング, 최응구)

北京大学(中国)・教授。北京大学朝鮮文化研究所所長、国際高麗学会会長を歴任。朝鮮語文体論を専門とする。1961年に延辺大学朝鮮語文系を卒業した。1961年に金日成綜合大学研究院学習文体系(語体学)に入学、1964年に帰国し、1965年に副博士学位を取得した。主著に、『朝鮮語文体学』『朝鮮語词汇学』『语言学概论』『金哲与其他的诗』等がある。

◎翻訳者

李陽民 (イヤンミン, 이양민)

日韓会議通訳・翻訳。梨花女子大学通訳翻訳大学院通訳修士を取得。

吳仁濟 (オインジェ, 오인제)

大谷大学・非常勤講師(韓国・朝鮮語)。同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程。朝鮮近現代史、在日朝鮮人史を専攻する。主な論文に、「韓国の朝鮮籍に対する認識—二つの韓国入国拒否事例から考える」(2012)等がある。

森類臣 (もりともおみ)

立命館大学コリア研究センター・専任研究員、同大学文学部非常勤講師。同志社大学グローバル地域文化学部嘱託講師。博士(メディア学)。専門は韓国社会論。主な論文に「言論民主化運動から『ハンギョレ新聞』へ—韓国ジャーナリズムの変動過程に関する一考察」(2013)等がある。